



自然遊学館 だより

2014 SPRING

No.71



雪の自然遊学館

2014 年 2 月 14 日、朝から例年になく大雪に見舞われ、
あたり一面銀世界となりました。

2014. 4.30 発行 貝塚市立自然遊学館

	目 次	
--	-----	--

***行事レポート**

春の七草摘みハイキング 白木江都子... 1

打ち上げ貝拾い 山田浩二... 3

千石荘&近木川河口バードウォッチング
..... 和田太一... 4

二色浜の漂着物を調べよう！ 山田浩二... 7

自然を食すⅢ 川村甚吉... 7

***館長コーナー**

遊学館 20 周年を記念して『生きものだいすきで 20 年』
ー 生きものだいすきの歴史が積み上げたもの 3 ー
..... 高橋寛幸... 11

***調査速報**

千石荘昆虫調査 2013 岩崎拓... 15

***特別展レポート**

特別展「千石荘の自然」の報告Ⅳ
..... 岩崎拓・湯浅幸子... 17

*寄贈標本 20

*スタッフ日誌 23



行事レポート

春の七草摘みハイキング

日時：2014年1月5日（日）10:00～13:00

場所：蕎原ほの字の里周辺

参加者：28人

穏やかなお正月の延長で、風もない暖かい朝でした。4人のスタッフは、ほの字の里運動場に集まった8家族の皆さんに「いいお天気でよかったですね」と口々に声をかけています。

「せり」「なずな」「ごぎょう（ハハコグサ）」「はこべら（ハコベ）」「ほとけのざ（コオニタビラコ）」「すずな（カブラ）」「すずしろ（ダイコン）」の実物見本を前にして高橋館長が挨拶をされ、「川村元館長が、各家族にお土産用の七草を用意して下さっているので、行く先で必死になって採集しなくても大丈夫ですから、よく観察してきてください。田んぼの畔を崩したりしないようお願いします」と付け加えられました。続いて湯浅さんと白木が、七草と七草に間違われやすい植物の説明をしました。



七草のうち、一番手に入りにくいのがコオニタビラコです。稲を刈り取ったあとの

田んぼに生えていますが、どの田んぼにも生えているわけではありません。属は違いますが、同じキク科の「オニタビラコ」は、街中の家の敷地内でも溝の中でも、場所を選ばず生えています。冬の間「コオニタビラコ」は、田んぼの端でロゼット状に葉を広げて養分を蓄え、春の初めにタンポポを華奢にしたような花を咲かせますが、田植えの準備が始まるころには姿を消してしまいます。最近では性能の良い耕運機が、しっかり耕してしまうからでしょうか、蕎原の田んぼでも年ごとに少なくなっていくようで心配です。この「コオニタビラコ」、昔は「ホトケノザ」と呼ばれていましたが、現在「ホトケノザ」という名前の植物は、シソ科の紫色の花を付ける別の植物です。紛らわしいので困ります。



俗にペンペン草と呼ばれている「ナズナ」は、白い花も姿も「タネツケバナ」と似ていますが、葉っぱの切れ込み方や実莢の形が違います。ナズナの実莢は三味線のばちの形に似ていますが、これを切り離さない程度に引っばって茎にブラ下げ、かんざしのように揺らして遊んだものです。揺らしても、ペンペンと音がするわけではあ

りません。イヌガラシの芽生えもナズナとよく似ていますが、こちらは花が黄色です。

毎年数が少なくて苦労する「ハハコグサ」は、12月の下見のときには見つかることができませんでした。ところが本番では、ほの字の里を出る前の坂道で早くも一株見つかり、おまけに採集場所の元田んぼ（ほの字の里の所有地）の真ん中に、かたまっただけの株があるのを参加者の方が見つけました。近縁の「チチコグサモドキ」の芽生えは、ハハコグサとなかなか見分けがつきませんが、花が咲くと、色も形も違うのでわかります。「チチコグサモドキ」は、道路脇や空き地に普通に見られました。

最近「セリ」が増えてきました。溝だけではなく、土手にも田んぼの真ん中付近にも侵入してきています。「セリ」と葉の形がよく似ているけれど有毒の「キツネノボタン」は、溝の中など水気の多い場所に生えるのも同じなので、この2種は実物を見比べてもらい、しっかり覚えてもらうようにしています。

昔は多くの家でニワトリを飼っていましたが、えさ箱を覗くと「ハコベ」を細かく刻んだものと米糠と混ぜたものが入っていました。「ハコベ」には、ひよこ草の別名があります。七草の中では「はこべら」と呼ばれています。現在でも街中で普通に見られ、パンジーなどの苗を買ってくると、たいてい傍らから芽を出し、大きな株に生長して行きます。

参加者は、蕎原の田んぼやその周辺の植物を観察しましたが、山沿いの田んぼは陽がささず、おまけに後半は冷たい風も吹き始め、ほの字の里の田んぼで野草5種を採

集する頃には、寒さに負けて早めに引き上げる方もありました。たいていの家族は、自力で5種類をゲットしてほの字の里に戻りました。



暖かい室内で、お漬け物が添えられた七草粥は大人気、みんなお代わりを重ね、大きいお鍋は空っぽになりました。

12月27日 下見時に確認した植物

オニタビラコ・チチコグサモドキ・ウラジロチチコグサ・コオニタビラコ・タンポポ・ヨシノアザミ・ヒメジョオン・ノコンギク・ヨモギ・アメリカセンダングサ・ホタルブクロ・ヘクソカズラ・キツネノマゴ・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・ホトケノザ・カキドオシ・キケマン・カラスノエンドウ・キウリグサ・ナズナ・タネツケバナ・イヌガラシ・ヘビイチゴ・フユイチゴ・ナワシロイチゴ・ミドリハコベ・セリ・オランダミミナグサ・キツネノボタン・アメリカフウロ・イヌタデ・オオバコ・ユキノシタ・ナギナタガヤ・スズメノカタビラ・チガヤ・メリケンガヤツリ・シヤガ・ヒガンバナ・ジャノヒゲ・ニワゼキショウ・イノモトソウ・ノキシノブ・ヒトツバ

（白木 江都子）

打ち上げ貝拾い

日時：2014年2月1日（土）13:00～15:30

場所：二色の浜、自然遊学館多目的室

参加者：42人

小春日和に恵まれ、この時期としては珍しく暖かな日差しの下での行事でした。自然遊学館玄関前から参加者の皆さんと一緒に歩いて、観察場所の近木川河口右岸の海岸へ行きました。講師には、いつもお世話になっています日本貝類学会員の児嶋格さんに来て頂き、打ち上げ貝とは何か、たくさん拾うポイントなどについてお話頂き、スタートしました。

満潮時の波打ち際に沿って打ち上げ物がたまっているところを中心に、貝殻を探していきました（図1）。アサリ、マガキが圧倒的に多かったですが、シマメノウフネガイ、ツメタガイ、ナミマガシワなどのおなじみの常連組も多く目にしました。

1時間程拾い集めた後、館に戻り、皆が拾った貝について児嶋先生に説明して頂き、種名をホワイトボードに書き出しました。大勢で拾っただけあって、海産の貝44種、淡水貝2種、陸産貝5種に及びました（表1）。この場所では珍しい種として、クレハガイ（図2）、ヤカドツノガイ、スダレモシオ、エゾマテガイなどが記録されました。また、貝ではありませんが、触手動物門腕足綱のシャミセンガイ科の一種（図3）の殻が2個体採集され、貝塚市の海岸では初記録になると思われます。本種は内湾の砂泥底に埋もれて暮らすので、近くに生息している可能性が高いです。



図1. 近木川河口で打ち上げ貝を拾う



図2. クレハガイの貝殻
近木川河口打ち上げ 2014年2月1日



図3. シャミセンガイ科の一種の殻
近木川河口打ち上げ 2014年2月1日

表1. 観察会で確認した打ち上げのリスト 貝塚市立自然遊学館

グループ 和 名		近木川河口 2014/2/1 42人
多板綱	ケハダヒザラガイ科 ヒメケハダヒザラガイ	rr
腹足綱	ユキノカサガイ科 コウダカアオガイ	rr
	ニシキウズ科 コシダカガンガラ	r
		イシダミ r アシヤガイ rr
	アマオブネガイ科 イシマキガイ	rr
	タマキビ科 タマキビ	r
	カリバガサガイ科 シマメノウフネガイ	c
	タマガイ科 ツメタガイ	c
		ネコガイ rr
	イトカケガイ科 クレハガイ	rr
	アッキガイ科 レインガイ	rr
		イボニシ r アカニシ rr
	フトコロガイ科 ムギガイ	r
	ムシロガイ科 ムシロガイ	rr
		アラムシロ c
	カラマツガイ科 カラマツガイ	r
		キクノハナガイ rr
堀足綱	ゾウゲノソノガイ科 ヤカドソノガイ	rr
二枚貝綱	フネガイ科 カリガネエガイ	rr
		サルボウガイ c
	イガイ科 ムラサキイガイ	r
		コウロエンカワヒバリガイ r ホトギスガイ c
	ナミマガシワ科 ナミマガシワ	c
	ウミギクガイ科 チリボタン	rr
	イタボガキ科 マガキ	cc
	モシオガイ科 スダレモシオ	rr
	バカガイ科 バカガイ	r
	チドリマスオ科 クチバガイ	r
	ニッコウガイ科 サクラガイ	r
		ヒメシラトリガイ r
	シオサザナミガイ科 ハザクラガイ	rr
		イソシジミ rr
	マテガイ科 マテガイ	r
		エゾマテガイ rr
	シジミ科 ヤマトシジミ	rr
	フナガタガイ科 ウネナシトマヤガイ	rr
	マルスダレガイ科 オニアサリ	rr
		カガミガイ r アサリ cc
		ウチムラサキ rr
	クチベニガイ科 クチベニガイ	rr
淡水産	リンゴガイ科 スクミリンゴガイ	c
	サカマキガイ科 サカマキガイ	rr
	オカモノアラガイ科 ナガオカモノアラガイ	rr
陸産	アズキガイ科 アズキガイ	rr
		ヒメタマゴマイマイ rr
		オオケマイマイ rr
		クチベニマイマイ rr
頭足綱	コウイカ科 コウイカ科の一種	r
甲殻類	ガザミ科 イシガニ	rr
	モクズガニ科 ヒライソガニ	rr
腕足類	シャミセンガイ科 シャミセンガイ科の一種	rr

計 55

凡例：数量：cc 多数、c 普通、r 少数、rr ごく少数

その後は、自分で拾った貝殻の中からお気に入りのものを選んで、各自が思い思いにレイアウトして紙皿に貼っていき、壁飾

りの製作を行いました(図4)。貼り付けた貝殻の下にはそれぞれ種名ラベルをつけて、完成させました(図5)。



図4. どの貝殻にしようかな～？



図5. 参加者の製作した貝殻の壁飾り

(山田 浩二)

千石荘&近木川河口

バードウォッチング

日時：2014年2月22日(土) 10:00～15:30

場所：千石荘、近木川河口

参加者：24人

毎年恒例のバードウォッチング行事を今年も実施しました。午前の部は千石荘で里山やため池で暮らす野鳥を観察しました。最初に集合場所のこすもすの里バス停近くにある下原池で挨拶をし、参加者の皆さんは双眼鏡の使い方を練習しながら、岸辺にとまっているダイサギやゴイサギの幼鳥などを観察しました。

林の中の道を歩いていると、いろいろな鳥の鳴き声が聴こえてきます。耳を澄ませていると早速藪の中から「ジャツジャツ」という鳴き声が聴こえてきました。参加者の皆さんはあまり聞き慣れない声のようでしたが、「実はこれはウグイスの地鳴きと言って、普段の鳴き声です」と解説しているところで「ホーホケキョ」というおなじみのさえずりも聞こえてきて、地鳴きとさえずりの違いをよく聞き比べることができました。



千石荘バードウォッチングの様子

ホオジロやアオジ、ヒヨドリ、メジロ、シロハラなどみんなそれぞれに鳴き声が異なります。「この鳴き声は何の鳥だろう？」と鳴き声を頼りに参加者たちは林の

中で鳥たちの姿を探していました。カンコ池では池を泳ぐオオバンや民家の屋根の上にとまっているアオサギなどを観察しました。林の中をさらに進んでいくと日本で一番小さなキツツキのコゲラが「ギイー、ギイー」と鳴きながら、メジロやエナガと混群を作って木々の間をスルスルと移動していきました。



千石荘養護学校跡地にいたホオジロ

開けた農耕地にはツグミやケリが見られましたが、ツグミはこの冬は飛来数が少ないのか、数はとても少なかったです。千石荘の毎年の目玉であるワシ・タカの仲間は今年は寂しく、最後にトビとミサゴが少し飛んでくれただけでした。バス停まで戻ってきて、まとめをして午前の部を解散しました。

午後の部は自然遊学館前をスタートして、近木川河口で川や海辺の野鳥を観察しました。まずは近木川河口にたくさんいたカモやカモメの仲間を観察しました。カモはホシハジロとヒドリガモ、オナガガモを合わせて400羽以上いるようでした。カモメの仲間ではセグロカモメが多く見られました。



近木川河口にいたオナガガモ

再生ワンドではヒドリガモやカルガモが休息し、嘴に婚姻色が出た綺麗なアオサギも見られました。対岸の干潟にはケリ、イソヒヨドリ、イソシギなどいて、再生ワンド周辺は野鳥たちでなかなか賑わっていて面白い場所でした。さらにカワセミを探して上流に向けて歩いていきましたがこの日は残念ながら現れず、永久橋で左岸に渡って、モズ、ツグミ、コガモの求愛行動（ディスプレイ）などを観察しながらまた河口までゆっくりと歩きました。



婚姻色が出たアオサギ
(再生ワンドの開口部の上流側)

水際の砂地には無数のすり鉢状の窪み

ができており、参加者の皆さんも「あれはいったい何だろう？」と不思議がっていましたが、ちょうどそこでカルガモやオナガガモが食事中で、水中に頭を突っ込み逆立ちしたり、脚でバシャバシャと砂を攪拌して餌を探っている様子が見られました。砂地にできたたくさんの窪みはこうしたカモ類の食事の跡でした。河口まで出るとシロチドリが数羽飛び立ち、砂洲に降りたところがよく観察できました。最後にまたカモ類・カモメ類を観察し、まとめをして解散しました。

例年に比べ、千石荘では山野の鳥が少なく、近木川河口でもカワセミが見られなかったのは少し残念でしたが、一日かけて貝塚市で冬を越すいろいろな鳥たちの様子を観察することができました。

観察された鳥 千石荘

カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ（幼鳥）、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、ケリ、ミサゴ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ（29種）

近木川河口

ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ケリ、シロチドリ、イソシギ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、トビ、モズ、ハシ

ボソガラス、ハシブトガラス、ムクドリ、ツグミ、スズメ、イソヒヨドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、アオジ(29 種)

(NPO 法人南港ウェットランドグループ
和田太一)

二色浜の漂着物を調べよう！

日時：2014 年 3 月 9 日（日）10：00～12：00
場所：二色の浜
参加者：12 人

昨年から行事メニューの 1 つに加えた「漂着物を調べよう！」を今年も行いました。寒い日が続く中では、なかなか海辺の行事には足が向かないようで、少人数での実施となりました。

二色の浜の砂浜に打ち上げられた様々な漂着物を約 1 時間拾い集めてもらい、それらを 4 つのグループに分けました。(図 1) 貝殻やウニの殻などの“海から来た自然物”、漁の道具の“海から来た人工物”、木の実やセミの抜け殻などの“野山から来た自然物”、空き缶やペットボトルなどの“街から来た人工物”です。釣りで使うルアー(疑似餌)を見つけましたが、「これは漁具だけど主にブラックバスを釣るルアーなので、“街から来た人工物”になるなあ」とか、「この鳥の羽はどこに入れたらいいかなー？」との質問に「カモメなどの海鳥ならこっただけど、山に住む鳥ならあっちゃなあ」などと、なかなか判断にてこずる漂着物もありました。

拾い集めた人工物は、最後にゴミとして処分しました。野山にあるものや、街にあるものが、川を通して海に流れ着くという環境問題の視点から、海に住んでいる様々な生きものも漂着物として打ち上がり、そのバラエティさといった博物的な視点まで、漂着物はいろいろな角度から考えさせられました。



図 1. 二色の浜で漂着物を調べる

(山田 浩二)

自然を食すⅢ

日時：3 月 23 日（日）12：00～14：00
場所：自然遊学館多目的室
参加者：25 人

目的：自然の恵みを感じて食す

(春の野山や海にある自然の食材の名と料理法を学び、自然の恵みに感謝して食べる)

講師：栗山 昭先生(国家資格調理免許習得)

メニュー

ワラビご飯、キノコとワカメ汁、酢ワ

カメ、カラスノエンドウの胡麻和え、
天ぷら（アサツキ、レンゲ、フキの葉、
セリ、ツクシ、イワシ）

ヨモギクッキー（実習）

クマザサ茶

食材と準備物

ワラビ 4 束、米 16 カップ、天ぷら油 3
リットル、小麦粉 2 キログラム、ホッ
トケーキミックス 800 グラム、味噌、
だし、ポン酢、酢、砂糖、酒、塩、
天ぷら材料、あくを抜いたヨモギ、ク
マザサ茶

カセットコンロ 5 台、カセットガス 6
本、フライパン 5 個、鍋 2、ボール 5、
大茶瓶 1、手拭、ふきん、バケツ、ゴ
ミ袋、紙皿 25、ペーパータオル 4 巻



おかず

活動の様子

定員いっぱいの 20 人参加で、付近のスー
パー開店などで渋滞にあわれた 4 名の方
以外は、開始時刻 12 時に着席頂きました。
配膳を終え、「いただきます」の声を合わせ、
特に何の説明もなく、いきなり食べる
という学習はめったにありません。



食事の様子

主食はワラビの炊き込みご飯、汁はシイ
タケとワカメのみそ汁、おかずは酢ワカメ、
和え物、天ぷらです。調理施設のない当会
場では事前に作れるものは作っておかな
ければなりません。活動開始時刻の 5 時間
前から実際の準備が始まります。米を 16
カップ、3 つの釜に分けて入れて洗います。
水切りするなど天ぷらの材料を整えなけ
ればなりません。基本的な準備が出来たこ
ろ、栗山先生は 8 時前にかけてしてくれま
した。栗山先生は手際よく炊き込みご飯の
調合や、天ぷらが順調にできるようにして
くれます。前年からおかずの名札を付けま
した。例えば、酢ワカメ、カラスノエンド
ウの胡麻和え、天ぷらにはその材料の名前
をカードに書いたものを並べて、後で感想
を述べ合う時、まごつかないようにしまし
た。食材の一つに「？」マークをつけ、後
で問題としましたが、私が用意した食材の
説明カードにそれを載せており、一目でわ
かってしまいました。次回はそんな失敗を
しないよう気をつけます。

食後簡単な後片付け後、高橋館長からご
挨拶を申し上げました。「自然の恵みを知
り、感謝し、こうして食べるまでには様々

な苦労がある」ことなどを話されました。スタッフの紹介、栗山講師先生の紹介の後、改めて本日の日程の説明をしました。

次は栗山先生から、本日の料理の説明です。炊き込みご飯は米1カップに付、大匙1杯の醤油を入れるのがコツだと説明されました。みそ汁は味噌を入れて、沸騰させると風味がなくなると説明してくれました。

テンプラの野菜は160℃くらいでゆっくり揚げる事が大切だと教えてくれました。



おかわりの様子など



説明される栗山講師

川村は本日扱った植物全般について説明しました。



実習の様子

最後に、ヨモギを使ってクッキーを実習しました。好評でした。



ヨモギホットケーキ

アンケート

- ・ クッキーがおいしかったです。作れたのも楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ とてもおいしかったです。ありがとうございました。普段は食べることのない食材で春を感じながら食べることが出来ました。
- ・ 最後につくったヨモギクッキーはとてもおいしかったです。カラスノエンドウや酢ワカメその他のテンプラなどおいしかったです。また、「自然を食す」に来たいと思います。とても楽しかったです。
- ・ レンゲのテンプラとか、野草のテンプラがお

いしかったです。ご飯もおいしくて4歳の孫が3回おかわりしました。みそ汁もおいしく2歳の孫もおかわりしていました。ありがとう。(西田政弘)

- ・ とてもよかったです。野草とかどんなのかな、って思っていましたがおいしくいただきました。植物の話も勉強になりました。子どもはワラビご飯が好きみたいです。どの料理も思っていたよりとても食べやすくおいしかったです。また、いろんな行事に参加したいです。ありがとうございました。
- ・ 本日は本当にありがとうございました。いろいろな野草がおいしく変身できるんですね。日頃身近に目にする植物ですのでこれからも見捨てず、四季を通じて食材を知り、料理法を知りたいと思います。準備から調理までお手伝いもせず申し訳なくありがたく思います。ご馳走様でした。
- ・ 野に咲く春の野草を食してみるとごく自然な素朴な味と香りを頂くことが出来ました。今、いかに余計な味、香りを毎日食べているのかと改めて感じた次第です。また、機会があれば参加したいと思っています。ありがとうございました。
- ・ 野草を上手に料理してあるのでおいしく食することが出来ました。ヨモギのクッキーも結構いけますね。また、機会があればノビルのヌタを食してみたいです。たらの目のテンブラも所望です。
- ・ まずは高橋館長、案内を下さりありがとうございました。食べる野草2回目の参加です。天ぷらの種類も変化があってまた、おいしかったです。楽しい説明もありがとうございました。
(辻)

- ・ ヨモギのケーキを作ってすごくおいしかったです。天ぷらを食べましたが、ツクシのテンブラが一番おいしかったです。今日は本当にありがとうございました。(辻大機)
- ・ とてもおいしくいただきました。レンゲも食べられるとは・・・びっくりしました。ご飯もみそ汁もとてもおいしかったです。ワカメのス和えにすごくおいしかったです。また、参加したいです。
- ・ 楽しかった。おもしろかった。またやりたい。おいしかった。見た感じはまずく見えただけ、食べるととてもおいしかった。クイズも当たってうれしかった。
- ・ ワカメはシャリシャリしてとてもおいしかったです。ご飯とみそ汁の味があっさりしていて、とてもおいしかったです。お腹いっぱいごちそうさまでした。
- ・ 今日はありがとうございました。常道君が誘ってくれて楽しい日を送れました。どれもおいしくてびっくりしました。特に私はご飯がおいしくいただきました。また、みそ汁もいい味でした。・・・(金納英彦)
- ・ 今日の日を楽しみにしていました。期待通り珍しい料理法でおいしくいただきました。ワラビご飯の分量を教えて頂きありがとうございました。天ぷらも家でやってみようと思います。ありがとうございました。(中谷尚子)
- ・ 遊学館の皆さまのおかげで半日家では経験できない時間を過ごし、感謝の気持ちでいっぱい。また、食べ物(自然食)すべておいしかったです。次回も楽しみです。ありがとうございました。同じテーブルの方々ありがとうございました。
- ・ おみそしるが具だくさんでおいしかったです。天ぷらも衣がうすく素材が生かされていて青

臭くなくおいしかったです。また、参加した
いです。ありがとうございました。(金津美恵)

- ・ 野草食事会、野山に見られる野草が調理の仕
方で大変美味で三薫り高く驚いています。イ
ベントの準備も大変ですが有意義なイベント
です。続けてください。一日楽しい思いあり
がとうございました。

(川村 甚吉)

館長コーナー

遊学館 20 周年を記念して

『生きものだいすきで 20 年』

—生きものだいすきの歴史が

積み上げたもの 3—

自然遊学館は、貝塚の自然を調査し、豊
かな環境を保全していくために、貝塚市二
色町に建てられ、環境教育の拠点となるべ
く、貝塚市の生きもの調査や植物調査を重
ねています。その遊学館の紹介です。前回
に続き 2 回目をお送りします。

遊学館と言えば、館内に展示されている
生き物の数と種類に値打ちがあります。館
内見学に来られた方のほとんどがその数
と種類に驚いています。という出だしで遊
学館のある日曜日の出来事を前回紹介さ
せていただきました。

今回は展示物について少し紹介しよう
と思います。平成 25 年 3 月に雨漏り工事
の修理が終了し、外観がきれいになったこ
とは既にお知らせしましたが、館内のリニ
ューアルも少しずつ行われています。



入口扉左側の展示

ここには以前は手作りの作品が並んで
いましたが、入場者の目につきにくいこと
もあり、大きな展示物に交換しました。

貝塚産ではない物がありますが、大きな
ものなので、入館される皆様が興味を持っ
て立ち止まること請け合いです。

反対側には関係機関の紹介パンフレッ
トやお知らせ、たより等が置かれています。
入館された方が館を出るときに幾つか手
にされて帰られます。

パンフレットやお知らせをみながら次
の訪問地を決めている方もおられます。



入口エントランスホール

入口から更に入るとこのホールに来ます。ここは大阪湾の生きもの水槽（魚類が中心）があります。来館された方は大型水槽にばかり目を惹かれてしまいますが、実はその上がリニューアルされています。



大阪湾生きもの水槽上部に並ぶ剥製

左からアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、フグ提灯です。一番手前のアカウミガメは館中央の陳列ケースに置いてあった、岬町沖の定置網に掛かった死体を剥製にしたものです。

こうして壁に掲げたことでケース内に置くことよりも大きさが引き立ち、迫力ある展示になりました。

その反対側には、近木川河口付近に平成24年に新しくできた汽水干潟（『近木川汽水ワンド』と名付けられました）の干潟再生調査の報告コーナーが作られています。新しく棲みついたり発見されたりした生きものが紹介されています。

この汽水ワンドは現在一般に開放されていませんが、干潟が形成され生きものが棲みつくころに一般開放される予定です。



汽水ワンド報告コーナー

上の写真の2枚の衝立の左側に汽水ワンドの調査報告が掲示されています。右側は昨年の20周年記念行事の時に行った『生きものだいすき総選挙』、『似顔絵コンテスト』の結果が報告されています。

衝立の横（写真左）の水槽にはその時の人気ナンバー1のタカクラタツがいます。



タカクラタツ 2014. 4. 27 撮影

尚、昨年行いました生きものだいすき人気者投票や似顔絵コンテストは今年も夏休みに実施するつもりです。前回と同じように投票箱を設置して行う予定です。その時には皆様多数ご参加下さいますようよろしくお願いします。

遊学館の中央には一番広い展示ホールがあり、そこにはマゴンドウクジラとスナメリの骨格標本が天井から吊り下げられています。来観した子どもたちが時々「恐竜の骨？」と聞いてくることがあります。恐竜人気にあやかって「そうだよ恐竜だよ」と言いたいところですが、嘘はつけません。



マゴンドウクジラとスナメリの骨格標本

遊学館最大の展示物、マゴンドウクジラの骨格標本の下に新しい剥製がお目見えしました。



シロシュモクザメ剥製

2014年1月19日に近木川の河口に打ち上げられていたのを発見した、と中学生の

方からの情報がありました。行ってみると90cm くらいのシュモクザメの死体でした。珍しいので剥製にしようかと判断し、しばらく保管していたものです。写真で見ても分かるように、頭が横に大きく伸びていて、目玉がその端の方についています。英語でハンマーヘッドシャークと呼ばれるサメです。なんとなく隣のアカウミガメが驚いているように見えます。



シロシュモクザメとアカウミガメ

その奥、近木川下流域水槽の上に近木川のアユの剥製があります。



近木川下流域水槽

上の写真、近木川下流域水槽の右上に近木川で捕れたアユの剥製があります。

近木川の鮎調べは、この3年間でアユの目撃情報がいくつかあり、2年前から行事として実施しました。今年で3年目を迎える新しい行事です。

昨年の第2回目のアユ調べでは、思った以上にたくさんのアユが確認できたので、捕れたアユを剥製にしました。



近木川のアユ剥製

2012年に1回目のアユ調べをしたときには確認されませんでした。いることは間違いないが見つからなかったことで行事の存続が危ぶまれていました。

近木川でアユの確認ができなかった1回目の年、近くの水未来センターの疎水ではアユが確認されたこともあり、2回目を行うことを決めましたが、遊学館行事として実施する前には何度も下調べをしました。

2014年9月22日の予定日が近付いた頃には、土手から見てもアユがいることが分かったので、予定通り近木川のアユ調べを行いました。この時かなりの数のアユが確認され、そのうちの数匹を遊学館の水槽で飼っていました。

捕獲し、飼育したアユは一か月ほど遊学館の水槽で泳ぎ回り、訪れた方々を驚かせていました。その中の大きくてきれいなものが剥製になりました。

この他に、遊学館の展示ホールには近木川河口の様子を模型にした水槽があります。クジラとスナメリの骨格標本の隣にあ

る水槽です。

水槽の手前部分が河口下流になります。潮の干満が出現する仕掛けがある不思議な水槽です。この水槽の中には、川原が作られ、満潮で隠れ、干潮で出現します。また河口に棲んでいるのカニやヤドカリがいます。しばらくじっと見てみると、カニやヤドカリが動いているのが確認できます。時間の余裕のある方は入館時に一度様子を見、(水がたまっているかたまっていないか) その後、ゆっくり見学し、帰り際にもう一度見てみると入ってきたときとは違う様子を見ることができるとおもいます。



近木川の河口の様子を模型にした水槽

この河口水槽の奥の方は汽水水槽で、中にはボラやテナガエビがいます。以前はこの水槽には木枠が取り付けられていましたが、見やすくするというので、木枠を取り外しました。

ここで、遊学館紹介一幕終了ということで幕を下ろしたいと思います。続きは
一生きものだいすきの歴史が

積み上げたもの 4—
で最終編としてお届けします。

最後に

遊学館には、親子、幼児連れのお母さん、孫を連れて遊びに来るおじいちゃんやおばあちゃん、何度も訪れる人や初めての人、休憩のために訪れる人など様々な人が来館します。そして、前回紹介したように大きな声でお母さんや友だちを呼ぶ子どもたちは必ずいます。

今日、私が館内の点検をしていたところ、館内を一通り見学した親子連れの方がこんなことを話してくださいました。

「私たちは博物館や水族館が好きで、いろんな所に行きます。大きな博物館や水族館もいいですが、こんなに身近な生きものがたくさんいる所は見た事がないです。他にないですね？すごいですね。」

「これだけの展示数ですから府営ですか？」

貝塚市営ですと告げると、

「えっ、そうですか。とにかく楽しくて何度も来たくなります。また来ます。」と言葉を続けられました。

遊学館は、訪れた人たちの心の憩いの場所になっていることは間違いありません。

(高橋 寛幸)



調査速報

千石荘昆虫調査 2013

貝塚市千石荘において 2013 年 4 月から 12 月までの各月に 1 回ずつ 3 時間程度の昆

虫調査（ルートセンサス・任意調査）を行いました。その結果、および 2005-06 年と 2011-12 年の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

2013 年調査では、大阪府レッドデータブック指定種として、ベニイトトンボ（図 1）とコシロシタバ（図 2）を確認しました。



図 1. ベニイトトンボ（♂）
（トンボ目イトトンボ科、2013. 6. 4）
牛神池で撮影しました



図 2. コシロシタバ
（チョウ目ヤガ科、2013. 8. 8）

ランクはいずれも準絶滅危惧（＝存続基盤が脆弱な種）です。ベニイトトンボは 2005-06 年の調査では確認されましたが、2011-12 年には確認されませんでした。コ

シロシタバは 2012 年に引き続いて確認されました。2006 年の調査で確認された準絶滅危惧のナニワトンボは、2011-12 年には確認されず、今回の調査でも確認されませんでした。

2. 注目種

前号の和泉葛城山の調査速報でも述べましたが、あくまで私的注目種で、暫定的なものです。今後も調査を続けて、千石荘の里山的環境の指標となるような種を選んでいきたいと考えています。「こんな種もいるのか」というやや珍しい種と、「これがいなかったら千石荘も終わりや」という普通種の扱いをどうするか考えがまだまとまっていないのですが。

2013 年調査で確認された種は、アキアカネ (図 3)、クマスズムシ (図 4)、カンタン、サツマヒメカマキリ、アミメクサカゲロウ、コハンミョウ、カブトムシ、ハチモドキハナアブ、ミズイロオナガシジミです。ミズイロオナガシジミは 6 月 4 日に 5 個体確認しました。



図 3. アキアカネ
(トンボ目トンボ科、2013. 11. 7)
ボタン池の堤で 3 個体を確認しました



図 4. クマスズムシ (♀)
(バッタ目コオロギ科、2013. 9. 12)
ボタン池の岸近くで確認しました

クマスズムシはやや湿った環境を好む種で、貝塚市内では千石荘でしか記録がありませんでした (本誌 22 号)。自然遊学館にはオス成虫の標本しかなく、撮影後に逃げられたのは残念でした。

3. その他

2012 年調査で確認され本誌 65 号で紹介した「変わった虫」のヤノクチナガオオアブラムシ (長い口吻を持つ) とキノコヒモミノガ (細長いミノをつくる) は、今回もそれぞれ同じ場所で確認されました。変わった虫シリーズでは、12 月 5 日に確認したヒラズオオアリも資格があるかもしれません。枯れた枝の中にすんでいて頭が直方体に近い形をしています。「ヒラズ」は平頭の意味で、顔面が平らなのです。

自然遊学館の記録で市内 80 種目のチョウ類となったホシミスジも本誌 69 号で紹介しました。自然遊学館に標本がなかった種としては、トビイロスズメとアケビコンボウハバチが確認されましたが、いずれも幼虫だったので撮影だけに留めてしまいました (図 5)。



図5. アケビコンボウハバチ幼虫
(ハチ目コンボウハバチ科、2013. 5. 9)

気がかりなのは、石井ほか(1997)で「北側の草地では多数目撃され、この環境が安定して保たれている」ことを示唆する2種のバッタ、ショウリョウバッタモドキとクルマバッタが2005-06年、2011-2013年の調査でまったく確認されなかったことです。当時はチガヤが優占する開けた草地だったのに、今は樹木が生い茂り、林縁のササ類も伸び閉鎖的な環境になってしまいました。この2種のバッタは本当にいなくなってしまったのかもしれませんが。

最後に、2013年調査の速報として紹介した種の確認日(月/日)を示しました。*印は幼虫、無印は成虫での確認です。

大阪府レッドリスト種

ベニイトトンボ 6/4

コシロシタバ 8/8

注目種

アキアカネ 11/7

クマズムシ 9/12

カンタン 10/3、11/7

サツマヒメカマキリ 10/3*

アミメクサカゲロウ 7/9

コハンミョウ 7/9

カブトムシ 8/8、9/12

ハチモドキハナアブ 6/4

ミズイロオナガシジミ 6/4

その他

ヤノクチナガオオアブラムシ 6/4

キノコヒモミノガ(ミノ) 4/16~12/5

ホシミスジ 9/12

アケビコンボウハバチ 5/9*

ヒラズオオアリ 12/5

引用文献

石井 実・青柳正人・岩崎 拓・中谷至伸・
上田達也(1997) 貝塚市千石堀城址周
辺の昆虫. 貝塚市自然環境調査報告書
(1996年度): 31-46.

(岩崎 拓)



特別展レポート

特別展「千石荘の自然」の報告Ⅳ

前号までの3回で、千石荘の動植物の主なグループについて紹介してきました。自然遊学館が1993年の創館以来、20年に亘って蓄積してきたデータをもとに、貝塚市全体の種数、および千石荘の種数をまとめました(表6:外来種の種数も示しました)。キノコやクモは確実に調査が不十分ですが、その他のグループでも今後の調査によって種数が増えると思います。

表6. 貝塚市および千石荘で確認された
主な動植物グループの種数と千石荘
で確認された外来種の種数(内数)

グループ	貝塚市	千石荘	(外来種)
植物	1112	381	(67)
キノコ	153	37	－
昆虫 *	2649	684	(21)
クモ	82	21	－
両生類	11	4	(1)
爬虫類	16	8	(1)
哺乳類	20	6	(1)
鳥類	188	62	(2)

2013年5月末時点での値

* 昆虫のみ、2012年3月末時点の値

10. 千石荘の外来種

これまで各グループの紹介で外来種についてほとんど触れませんでした。例えば植物の場合、千石荘で確認されている 381 種のうち、67 種が外来種です。そのうち、特定外来生物はナルトサワギク (図 14) だけで、要注意外来生物は、アメリカオニアザミ (図 15)、オオブタクサ、セイタカアワダチソウなど 20 種にのぼります。



図 14. ナルトサワギク



図 15. アメリカオニアザミ

いずれのカテゴリーも環境省が定めたもので、生息域がこれ以上広がらないように注意が喚起されていますが、特定外来生物は特に、飼育・保管・運搬等が禁止されていて、違反に対しては罰則規定があります。

昆虫では 684 種のうち 21 種が外来種で、特別展では、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシとブタクサハムシを紹介しました。その他、アオマツムシ、クモガタテントウ、アメリカミズアブ、セイヨウミツバチなどを含みますが、特定および要注意外来生物に指定されている種はありません。

両生類ではウシガエル (特定)、爬虫類ではミシシippアカミミガメ (要注意)、鳥類ではソウシチョウ (図 16: 特定)、哺乳類ではアライグマ (特定) が千石荘で確認されています。淡水貝では、スクミリンゴガイが要注意外来生物に指定されています。



図 16. ソウシチョウ
(石井葉子さん撮影)

表 7 に、千石荘で確認されている特定および要注意外来生物のリストを示しました（淡水魚に関しては調査を行っていません）。

外来種の種数が多いのは植物で、ナルトサワギク、アメリカオニアザミ、オオブタクサ、ムラサキカタバミ、シナダレスズメガヤなど、この 10 年の間に侵入した種数もかなりあります。周辺の農耕地を含む生態系に大きな影響を与えるアライグマも要注意です。これらの外来種が、千石荘の在来種にどのような影響を与えるのか、経過を観察し続ける必要があります。

表 7. 貝塚市千石荘で確認された特定外来生物
および要注意外来生物

特定外来生物		
グループ	科	種
植物	キク科	ナルトサワギク
両生類	アカガエル科	ウシガエル
鳥類	チメドリ科	ソウシチョウ
哺乳類	アライグマ科	アライグマ

要注意外来生物		
グループ	科	種
植物	キク科	アメリカオニアザミ
		アメリカセンダングサ
		オオアレチノギク
		オオブタクサ
		コセンダングサ
		セイタカアワダチソウ
		セイヨウタンポポ
		ヒメジョオン
		ヒメムカシヨモギ
		ブタクサ
		モクセイ科
		トウネズミモチ
		アカバナ科
		メマツヨイグサ
		カタバミ科
		ムラサキカタバミ
		マメ科
		ハリエンジュ
		タデ科
		エゾノギシギシ
		イネ科
		オニウシノケグサ
		キシウスズメノヒエ
		シナダレスズメガヤ
		ホソムギ
		メルケンカルカヤ
爬虫類	ヌマガメ科	ミシシippアカミガメ
		淡水貝類
	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ

11. 千石荘の景観

特別展では、ほとんどの写真が 1 枚に 1 種を撮影したものでした。それは千石荘の自然をバラバラに切り取って紹介してきたとも言えます。バラバラに切り取るとは、ちょっと言葉が悪いかもしれませんが。良い言葉に置き換えると、分析的に紹介したとも言えます。ただ、実際の千石荘の現場では、いずれの種も、他の種との関わりの中で生きているということを、忘れないで欲しいと思います。千石荘の自然をそのまま特別展の会場に再現することは不可能です（図 17）。展示というものには限界があ

ります。疑似体験となりますが、最後に、千石荘の景観をいくつか紹介したいと思います（図 18～20）。かつてはこのような景観が至る所にあったのに、ほんの数世代であつという間に数少ない場所になってしまいました。ということは動植物たちのすみ場所が失われたことでもあります。



図 17. 特別展会場



図 18. 水田と雑木林



図 19. 牛神池



図 20. 雑木林の中

最後に、これまで千石荘で昆虫、植物、陸産貝の調査をしてきて一番疑問に思うことは、千石荘の森の北半分は二次林として利用されてきたのに、南半分の一部に二次林として利用されてこなかった部分（一次林として残されてきた部分）があるのはなぜかということです。単に熊取町との境界が入り組んでいるだけではないような気がしています。

以上、2013 年 6 月 16 日から 7 月 14 日まで開催した特別展「千石荘の自然」の内容を、本誌上で 4 回に分けて報告させていただきました。

（岩崎 拓・湯浅 幸子）

寄贈標本

<植物>

◆山野忠男さんより

皮が緑色のアケビの実 1 点

貝塚市鳥羽 2013 年秋収穫

<菌類>

◆田中博・橋本和樹さんより

ベニタケ属の一種 2点

貝塚市二色 2014年1月11日採集

◆渡辺波玲さんより

ヒラタケ 1株

貝塚市二色 2014年2月17日採集

<魚類>

◆市場屋邦雄さんより

タウナギ 生体1点

貝塚市橋本 2013年10月採集

◆奥田慎樹・山口風稀さんより

シロシュモクザメ 死体1点

近木川河口 2014年1月19日採集



左：山口風稀さん、右：奥田慎樹さん



シロシュモクザメ死体

◆市場屋邦雄さんより

ゲンゴロウブナ 生体10点

貝塚市橋本 2014年3月14日採集

<甲殻類>

◆濱谷 巖さんより

ユウモンガニ 乾燥標本2点

アカモンガニ 乾燥標本1点

メガネカラッパ 乾燥標本1点

奄美市名瀬小宿 1958年3月10日採集

<棘皮動物>

◆加藤将太さんより

マナマコ 生体1点

貝塚人工島 2014年3月28日採集

◆木村統也さんより

マナマコ 生体1点

貝塚市二色の浜 2014年3月29日採集

◆勝藤心生さんより

貝塚市二色の浜 2014年3月29日採集

<昆虫>

◆濱谷巖さんより

ヒメベッコウ属の一種 巢2点

岸和田市別所町 2013年9月25日採集

(同定：松本吏樹郎氏)

奈良県大台ヶ原産昆虫標本 143点

1965年8月3日～6日採集

(採集者：濱谷巖氏および大阪教育大学

附属高等学校天王寺校舎生徒)

詳細は年次報告書に掲載する予定です

◆石野雄大さんより

スズメガ科の一種 蛹1点

貝塚市二色 2014年1月23日採集

◆山野忠男さんより

コガタスズメバチ 巢1点

貝塚市鳥羽 2014年3月19日採集

＜寄贈写真＞

◆山野忠男さんより

アケビの花 4枚

ミツバアケビの花 1枚

アケビの実 11枚

暖地桜桃 2枚

月下美人の花 1枚



緑色のアケビの実

(2012年7月27日、貝塚市鳥羽)



月下美人の花

(2012年9月27日、貝塚市鳥羽)

いずれも貝塚市鳥羽のご自宅で植栽されたものを撮影した写真を寄贈していただきました。

3月12日から、月下美人の花を35度のホワイトリカーに漬けて保存したもの

をお借りして館内で展示しています。

◆藤井美代志さんより

アライグマ足跡 1枚

貝塚市畠中 2014年1月14日撮影

◆食野俊男さんより

イソシギ 1枚

カワセミ 1枚

近木川河口 2014年1月22日撮影

ゴイサギ 2枚

貝塚市麻生中 2014年1月24日撮影

ササゴイ 2枚

貝塚市千石荘 2014年2月25日撮影

ゴイサギ 2枚

貝塚市千石荘 2014年3月7日撮影

オオジュリン 3枚

近木川河口 2014年3月12日撮影

オオジュリン 1枚

近木川河口 2014年3月15日撮影

オオジュリン 5枚

近木川河口 2014年3月17日撮影



オオジュリン

(2014年3月17日、近木川河口)

ミサゴの巣 1枚

貝塚市木積 2014年3月19日撮影

ウソ 1枚

和泉葛城山山頂 2014 年 3 月 19 日撮影
スズメ 1 枚

貝塚市半田 2014 年 3 月 23 日撮影
オオジュリン 1 枚

近木川河口 2014 年 3 月 23 日撮影
オオジュリン 1 枚

近木川河口 2014 年 3 月 24 日撮影
ケリ 3 枚

ケリの巣 1 枚

貝塚市澤 2014 年 3 月 25 日撮影



スタッフ日誌

1 月 8 日、島根県隠岐の島にある剥製業者にかねてから依頼していましたアユの剥製標本が送られてきました。このアユは近木川下流で昨年 9 月の観察会で採集された価値ある近木川産です。生き生きとした標本で、川の中をペアで泳ぐ情景が表現されています。「近木川下流の魚」水槽の上に展示しています。(浩)

2 月 28 日、去年から千石荘の樹高調査を行っています。今回で 5 回目の樹高調査で、冬の間しかできない調査です。何故冬の間しかできないのかというと春～秋は、葉が生い茂っていて、木の高さを調べるのが難しいので、冬の間調べることになります。幹の直径が 50cm 以上を目安に大きな木を選び、種類、高さ、幹の太さ（胸高周）を測定しています。今までに調べた木の本数は、149 本になりました。これからも千石荘の自然を保全するために調査を行っていききたいと思います。(鈴)

3 月 6 日、二色の浜公園管理事務所の方が二色小学校 6 年生、約 80 名と一緒に松に巻いたコモを外してどんな生きものがあるのかを調べる授業に参加してきました。昨年と同じくクモ類が多く、メガネヤチグモ、キハダエビグモ、コカニグモがいました。昆虫ではハスモンヨトウの幼虫がそこそこいました。コモを巻いて退治する目的のマツカレハの幼虫は、すでにアオムシコマユバチの寄生を受けて死んでいました。驚いたのは、これまで自然遊学館に成虫の標本が 2 個体しかなかったラクダムシの幼虫が 2 個体も採れたことです。そのうちの 1 個体を所蔵標本としました。(岩)

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2014 春号 (No. 71)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2014. 4. 30

この小冊子は庁内印刷で作成しています。